

令和3年度 清原中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

児童の心身の発達にふさわしい教育を推進し、豊かな思考力・判断力・表現力を培い、心の教育を重視しながら、強じんな気力・体力と思いやりのある心や自主的精神に満ちた実践力を身に付け、自らの向上とより良い社会の発展に貢献しようとする、心豊かでたくましく生きようとする人間を育成する。

◇ 具体目標（めざす児童像）◇

- 1 自ら学び工夫する子ども（考える）
- 2 元気でがんばる子ども（鍛える）
- 3 礼儀正しく思いやりのある子ども（思いやる）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」

心豊かでたくましい子どもの育成には、子どもが生き生きと楽しく学習や活動に取り組む、明るく活気のある学校づくりが重要である。そのために、「子どもが楽しく学び、居がいを感じる学校」「教職員が特性を生かして、指導力を発揮する学校」「保護者・地域から信頼される魅力ある学校」を目指す。また、教職員の働き方改革を引き続き推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全職員が学校教育目標の共通理解に努め、調和の取れた教育活動を展開し、合言葉や具体目標の重点化を通して、教育目標の具現化に努める。

- (1) 常に「全ては子どものために」を念頭に置き、一人一人が清原中央小学校の職員であることの自覚と誇り、危機管理意識をもって勤務し、公務員及び教職員としての資質や指導力の向上に努める。また、「働き方改革」の理念を踏まえた取組も引き続き推進する。
- (2) 職員一人一人が率先垂範の精神で児童の教育に当たり、その姿勢を通して児童に学ぶ意欲や思いやりの心を育てる。また、一人一人の児童の夢を育む教育活動「夢いっぱいプロジェクト」の継続的な推進を図るとともに、確かな学力、個性を生かした教育と生きる力の育成に努める。
- (3) 地域学校園内の小中学校はもとより、保護者や地域社会、各種団体との連携を密にし、地域の教育力を生かし、地域に開かれた信頼される学校にする。

〔清原地域学校園教育ビジョン〕

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成
～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 本校教育課程は、日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、並びに県の方針や「第2次学校教育推進計画（うつのみやいきいき学校プラン）」・「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」・「清原学校園教育ビジョン」に基づき、創意ある教育課程を編成する。
 - (2) 本校教育目標・経営方針や努力点・学校課題等を踏まえ、「うつのみやマネジメントシステム」による学校評価結果を反映させながら、地域社会や保護者の願い、児童の実態・特性、学校の施設・設備、職員組織の実態等を十分考慮して、心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指して編成する。
 - (3) 新学習指導要領及び宇都宮市小中一貫教育の趣旨を生かし、確かな学力を身に付けるための適正な時数の確保に努める。また、新学習指導要領における「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を一人一人の児童が確実に身に付けられるようにすることを旨として編成する。
 - (4) 前年度の教育活動や学校評価の反省を十分に生かすとともに、各教科・道徳科・特別活動・総合的な学習の時間及び外国語活動、相互の関連を図った系統的・発展的な指導を心掛け、児童の自主的・実践的活動や体験的な活動を多く取り入れた特色ある教育活動が展開できるよう編成する。なお「社会に開かれた教育課程」の観点から地域等の意見の反映にも努めたい。
 - (5) 様々な学校行事や諸教育活動の実施方法等の見直しについて、学校長を中心に職員一丸となり、連携、協力を努め、充実した教育活動を展開していくことができるよう編成する。
- ※新型コロナウイルス感染防止対策のため、教育課程の修正や変更は弾力的に行うものとする。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>【 学 校 運 営 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢を育む教育活動の推進と教職員の資質・指導力の向上（清央 PRIDE） ・校内組織管理とボランティア活用による「働き方改革」の推進 <p>【 学 習 指 導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもち、豊かに表現する児童の育成 ～伝え合い深め合う力を高める授業づくり～ <p>【 児 童 生 徒 指 導 】</p> <p>○時と場に応じて、自ら進んで元気よくあいさつができ、周囲に対する思いやりを行動で表し、積極的に友達と関わり合える児童の育成</p> <p>【健康（体力・保健・食・安全）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの健康・体力の維持向上に関心をもち、生涯にわたって健康で安全な生活をしようとする児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にして児童に示すとともに、考える時間を確保したり授業形態を工夫したりするなどして、児童が積極的に授業に取り組めるよう支援する。 ・コロナ禍でもできる伝え合いの方法を考え、授業の中で取り入れていく。 ・教科担任制やローテーション授業を効果的に実施することで、学習意欲を高め、学習内容の定着を図る。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が96.8%、教職員が96.0%、保護者が93.9%で、いずれも数値指標を上回った。 ・コロナ禍でも可能な学習形態を試行、工夫するとともに、授業のめあてを意識した学習を展開することで、児童の学習意欲を高め学習内容の定着を図った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、授業のねらいを明確にし、考える時間を確保したり、授業形態を工夫したりするなどして、児童が積極的に学習に取り組めるよう支援する。 ・コロナ禍でもできる伝え合いの方法を考え、授業の中で随時取り入れていく。 ・教科担任制やローテーション授業を効果的に実施することで、学習意欲を高め、学習内容の定着を図る。
	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動や学校行事などに縦割り班活動を積極的に取り入れ、上級生が下級生の面倒をみる場を設定する。また、清掃班編制を3回とし、交流の機会を広げる。 ・道徳科の授業と全教育活動との関連を図り、思いやりのある豊かな心情を育む。また、思いやりと感謝についての生活目標を設定する回数を増やし、児童への意識付けを行う。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が93.9%、教職員が92.0%、保護者が95.7%で、いずれも数値指標を上回った。 ・年3回の清掃班の編制やドリームタイムでの活動を交流機会に捉え、上級生と下級生の関わりの場を設定できた。 ・帰りの会で「今日のキラリ」として、児童の親切な行動を称賛する機会を確保した。 ・感謝の言葉を伝えることを生活目標として設定し、児童同士の親切な行いに対する気付きや称賛を促した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組を継続するとともに、コロナの状況を鑑みながら、可能な範囲で交流の機会を広げる。さらに、思いやりと感謝についての生活目標を設定する回数を増やし、児童への意識付けを行う。

<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○「清原っ子の約束」や「清央っ子の約束」、学習のきまり、「カテ学ふり返しシート」を活用し望ましい行動習慣の形成を促すとともに、児童の望ましい行動や、よくできたことを称賛する機会を日常的に設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標と関連を図って週の生活目標を設定し、児童の実態や時期に応じた基本的な生活習慣（重点目標）の徹底を図るとともに、保護者の協力を得る。 ・学習や生活のきまりを定期的に振り返りながら、児童の実態を捉えるとともに、学年に応じて重点的に指導する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が93.9%、教職員が92.0%、保護者が95.2%、地域住民が100.0%で、いずれも数値指標を上回った。 ・「清原っ子の約束」の家庭への配付や、日常的な学習指導により、望ましい生活習慣や学習習慣の形成を促したり児童を称賛したりすることができた。 ・「カテ学ふり返しシート」の活用及び見直しにより、児童の学習習慣を形成させるとともに、保護者の協力を得た効果的な指導ができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習や生活のきまりを定期的に振り返らせ、自己評価させるとともに実態を把握し、必要な指導を行う。 ・児童の望ましい行動やよくできたことを称賛する機会を日常的に設ける。
<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○常時指導を強化するとともに、状況を鑑みながら児童会主体の「あいさつ運動強化週間」を実施する。また、清原地域学校園、地域協議会、PTAと連携・協力してあいさつ運動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域に運動の様子をHP等で発信し、あいさつの励行、ポケットに手を入れない指導を保護者・地域と共に行い、連携・協力の輪を広げている。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が98.7%、教職員が96.0%、地域住民が100.0%で、数値指標を上回ったが、保護者は78.8%で下回った。 ・コロナ禍の中で工夫した「手のひらあいさつ」が定着しつつある。また、児童会のあいさつ運動により、意識付けを図ることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの状況を鑑みながら、今後もあいさつ運動を継続して意識付けを図り、充実した活動となるようにする。 ・保護者や地域に運動の様子をHP等で発信し、あいさつの励行を呼び掛け、連携・協力の輪を広げ、啓発を図っていく。
<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や児童会活動、学級の係活動において、児童が活躍する場を工夫したり、教職員が児童にやれることを提案したりするようにする。 ・コロナ禍の中でも行えた行事に関しては、HPなどで情報を発信していくとともに一斉メールなどで、HPがアップされていることを定期的にお知らせする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が92.3%、教職員が92.0%で、いずれも数値指標を上回った。 ・コロナ禍のため、児童の活躍する場や保護者が来校できる機会も激減したが、限られた中で、児童は協力し合いながら取り組む姿が見られた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も活動が制限されることが予測されるので、児童が活躍する場を工夫したり、実情に応じて児童が活動できることを提案したりするように努める。 ・コロナ禍の中でも実施できた行事に関しては、HPなどで情報を発信していくとともに一斉メールなどで、HPがアップされていることを定期的にお知らせする。 ・実施できた行事に関して、録画した映像をお昼の放送で流して、振り返ることができるようになる。

<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食だより、保健だより等を活用し朝食の大切さや偏食について、保護者へ啓発を図る。また、「朝ごはん食べよう週間」を設定し、望ましい食生活の習慣化を図る。 ・「キラキラウィーク」を実施し、児童の歯磨きに関する実態の把握と啓発を図る。 ・避難訓練や交通安全教室など、交通や災害に対する安全教育を強化するとともに、「清央っ子の約束」を活用して日常生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導する。 ・学校生活の中の危険について職員であらかじめ共通理解を図りながら、児童の指導に当たる。 ・保護者や地域の安全ボランティアと連携を図りながら、児童が健康安全を意識した行動を習慣化できるようにさせる。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が 94.1%、教職員が 96.0%、保護者が 92.1%で、いずれも数値指標を上回った。 ・健康安全について授業や学校行事を通して、意識化を図るとともに、学校生活の中で児童の実態を把握し、適宜指導できた。 ・登下校の指導では、登校指導や班長会議、学年下校指導を通して事故を未然に防いだり、トラブルの際にはすぐに班を集めて話し合う場をもったりすることができた。 ・年間3回の避難訓練（地震火災・竜巻・不審者）や1年生の引渡し訓練を実施し、各学級において発達段階に応じた振り返りにつなげることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の安全ボランティアと連携を図りながら、児童が健康安全を意識した行動を習慣化できるようにする。 ・次年度は、全学年で引渡し訓練を実施し、危機意識を高めていく。
<p>A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 ※A 5で評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や児童会活動、学級活動、クラブ活動等の集団活動の中で、めあての達成に向け、個々の役割を果たせるように支援していく。 ・ローテーション道徳など様々な教育活動の中で、全児童の良さを全職員で共有するとともに、キャリアパスポートを活用して、児童に自分の夢と向き合うきっかけを作るようにする。 ・クラスタイムを引き続き活用し、夢プロの充実を図る。児童一人一人が自分の役割を果たせるようにするとともに、活動を振り返り、今後の生活に生かせるよう支援する。 ・「夢いっぱいプロジェクト」を推進するとともに、道徳科や学級活動を通して、自他の良さが認められる場面を設定し、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が 92.3%、教職員が 92.0%で、いずれも数値指標を上回った。 ・「夢いっぱいプロジェクト」の活動を通して、めあてを達成する喜びを味わう機会を得ることができ、自己肯定感の高まりにつながった。 ・クラスタイムを活用し、夢プロに取り組む時間が確保された。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人だけでなく、学級全体、児童会活動などにおいても、めあての達成に向け、個々の役割を果たせるように支援していく。 ・クラスタイムを引き続き活用し、夢プロの充実を図る。 ・学級で、自分の目標を発表する時間を作り、他の児童がどんな夢に向かって頑張っているのか知り、応援できるようにしていく。
<p>A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTを効果的に活用し、英語でのコミュニケーションに親しむ機会の充実を図る。 ・給食時に英語の歌などに触れさせ、授業以外でも英語に親しむ機会を設ける。 ・英語科主任が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が 93.9%、教職員が 84.0%で、いずれも数値指標を上回った。 ・ALTと事前に打合せを行い、役割分担を明確にすることによって、ねらいに沿った授業を展開することができた。 ・校内に英語の掲示物を設置し、触れる機会を増やした。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食時に英語の歌などに触れさせ、授業以外でも英語に親しむ機会を設ける。 ・英語科主任が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。

<p>A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「宇都宮学」を中心に、継続して、宇都宮市全体や他地区との比較検討をすることで理解を深める。 ・清原の豊富な地域の教材を活用した学習を様々な教科において展開する。 ・学年便りや学校便り、学校ホームページ等を利用して、児童が宇都宮についての学習を行っていることを情報発信していく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が 85.6%で数値指標を上回ったが、教職員は 76.0%で下回った。 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間を通して、宇都宮のよいところを探したり、他の地域と比べたりすることができた。 ・給食では、「宮っ子ランチ」を実施し、地産地消の考えを促した。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科や社会科、「宇都宮学」を中心に、継続して、宇都宮市全体や他地区との比較検討をし、特色を知ることによって理解を深める。 ・清原の豊富な地域の教材を活用した学習を、総合的な学習の時間を中心として、様々な教科において展開する。 ・学年便りや学校便り、学校ホームページ等を利用して、児童が宇都宮についての学習を行っていることを情報発信していく。
<p>A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内読書週間を実施し、本に触れる機会を確保し、各教科での調べ学習等にも活用するなど、自分が興味ある種類の本以外にも積極的に読めるように促す。 ・タブレットについては、発達段階に応じて体験できる機会を意図的に設ける。 ・プログラミング教育において、児童のタブレットに対する必要性の意識を高めていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が 94.9%、教職員が 92.0%で、いずれも数値指標を上回った。 ・社会科や総合的な学習の時間、その他様々な機会を通して、積極的にタブレットを活用した授業を行うことができた。 ・学校図書館司書と連携し、テーマに応じた本を集めてもらい授業の展開に活用した。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内読書週間を次年度も実施し、本に触れる機会を確保し、各教科での調べ学習等にも活用するなど、自分が興味ある種類の本以外にも積極的に読めるように促す。 ・授業において、タブレットを活用する機会を更に増やし、コミュニケーションのツールとしても有効に活用していくことできるようにする。
<p>A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ※A 2 で評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昔遊びなど地域の高齢者の方々にお世話になった行事に関しては、HPなどで情報を発信していくとともに、一斉メールなどで、HPがアップされていることを伝える。 ・感謝の会が実施できないなど直接関われないときは、お手紙を書くときなどに、高齢者を意識した内容の声掛けなどを行っていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が 93.9%、教職員が 92.0%、保護者が 95.7%で、いずれも数値指標を上回った。 ・今年度は昨年度に続き、低学年の昔遊びや登下校の見守り、数回の読み聞かせの機会にとどまり、高齢者と関わる時間が少なかった。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔遊びなど行うことができた行事に関しては、HPなどで情報を発信していくとともに、一斉メールなどで、HPがアップされていることを保護者に伝えていく。 ・感謝の会が実施できないなど直接関われないときは、お手紙を書くときなどに、高齢者を意識した内容の声掛けなどを行っていく。

	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施した活動が何につながったのかを明確にするために各種便りに結果を掲載したり、校内放送で周知したりすることで共通理解を図る。 ・物を大切にすることを育むために、物への記名や生活委員会の啓発ポスターなどを活用する。 ・学校図書館司書と連携し、「持続可能な社会」についての資料を把握しておき、指導に生かせるようにする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が 91.2%で数値指標を上回ったが、教職員は 68.0%で下回った。 ・5学年「ナルクの会」とのどんぐりの育成活動や環境委員会の「アルミ缶回収」などを通し、環境への意識や思いやる心を高めた。 ・総合的な学習の時間で、環境に対する意識やこれからできることを考えるとともに、福祉への理解も深めることができた。 ・生活委員会の廃止に伴い、啓発ポスターなどの活用ができなかった。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も継続して、実施した活動が何につながったのかを明確にするために各種便りに結果を掲載したり、校内放送で周知したりすることで共通理解を図る。 ・物を大切にすることを育むために、物への記名や委員会の啓発ポスターなどを活用する。 ・学校図書館司書と連携し、「持続可能な社会」についての資料を把握しておき、指導に生かせるようにする。
	<p>B1 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>○「清原っ子の約束」「清央っ子の約束」「家庭学習のすすめ」を参考にして、低学年から自主学習に取り組ませていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カテ学ふり返り週間」を年に3回設定し、家庭と協力して家庭学習の質を高めていく。 ・スタンダードダイアリーの家庭学習時間の欄を活用し、毎日継続して記入できるように声掛けをしていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が 84.3%、教職員が 80.0%で数値指標と同じか上回ったが、保護者は 69.2%で下回った。 ・「カテ学ふり返り週間」の設定により、学習習慣の定着が図られつつある。家庭との連携を図り、自主的に学習に取り組む態度を養いたい。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習のすすめ」を参考にして、低学年から自主学習に取り組ませていく。 ・「カテ学ふり返り週間」を定期的に設定し、家庭と協力して家庭学習の習慣化や質を高めていく。
<p>目指す学校の姿</p>	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会、月1回の情報交換会等を定期的に行うとともに、管理職・学年の教員・教育相談担当教員・特別支援担当教員・SC等、と連携・協力して児童一人一人のニーズや悩みを把握して解決に努める。 ・ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を図りながら、個に応じた支援を展開する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が 100.0%で数値指標を上回った。 ・年間2回の校内支援委員会を中心として、月1回程度の情報交換会や日常的な教員同士の情報交換を機会に共通理解を図り、適切にケース会議等を行うことにより、一人一人のニーズに応じた組織的な支援を行うことができた。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会、月1回の情報交換会等を通して、管理職・学年の教員・教育相談担当教員・特別支援担当教員・SC等、と連携・協力して児童一人一人のニーズや悩みを把握して早期発見、解決に努める。

<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関する情報交換を常時行い、迅速に組織的に対応できるよう、全教職員が報告・連絡・相談を確実に行う。 ・いじめゼロ強調月間の活動等、学校での取組を児童指導だより等で、保護者に発信していく。具体的には、いじめゼロ標語を保護者と共に作成することとしたり、クラス代表作品を家庭に知らせたりしていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が97.9%、教職員が100.0%で数値指標を上回ったが、保護者は75.8%で下回った。 ・いじめゼロ強調月間を通して児童への啓発を行ったり、いじめに関するアンケートや教育相談を基に事実の把握をしたりすることができた。また、日常的な指導の中で、いじめは許されないことを継続して指導してきた。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関する情報交換を常時行い、迅速に組織的に対応できるよう、全教職員が報告・連絡・相談を確実に行う。 ・いじめゼロ強調月間の活動等、学校での取組を児童指導だより等で、保護者に発信していく。具体的には、いじめゼロ標語を保護者と共に作成することとしたり、クラス代表作品を家庭に知らせたりしていく。
<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。 ・ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を密に行いながら、個に応じた支援を展開する。 ・学年だけでなく、全職員で児童を見ていくという意識を高めて、連携を密にしていく。 ・HPや学校だより、学級懇談会の機会を通して、不登校対策についての取組を保護者・地域に情報提供していく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が97.9%、教職員が100.0%、保護者が91.8%で、いずれも数値指標を上回った。 ・教職員の不登校に関する意識は高く、情報交換などを通して、同じ認識の下、児童に関わることができている。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年だけでなく、全職員で児童を見ていくという意識を高めて、連携を密にしていく。 ・HPや学校だより、学級懇談会の機会を通して、不登校対策についての取組を保護者・地域に情報提供していく。 ・教育センターやスクールカウンセラー等との連携を深め、当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを更に充実させていく。
<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 ※A13で評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語ボランティアを活用し、個に応じた日本語指導を充実させるとともに、より一層、当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを充実させていく。 ・日本語教室での学びが学級内で生かされ、当該児童の学校生活の充実につながるよう、担任との連携を密にする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が100.0%で数値指標を上回った。 ・外国人児童生徒教育拠点校に指定されているため、加配教員が配置され、充実した学習活動を行うことができた。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、学級担任と連携しながら当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを充実させていく。

<p>A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」の合言葉の浸透を図り、活気のある学校づくりを進める。また、「夢プロジェクト」の実践を通して、良好な人間関係づくりに努め、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できる学級経営を推進する。 ・ドリームタイムや児童会主催の活動を拡充させ、主体的に人と関わる力を醸成していくとともに、クラスとしてのまとまりを強めるような取組を推進する。 ・HPや学校だよりを通して、学校の取組を保護者や地域に情報発信し、理解と協力を求める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が92.3%、教職員が100.0%、保護者が95.8%、地域住民が100.0%で、いずれも数値指標を上回った。 ・「夢いっぱいプロジェクト」の推進・実践により活気のある学校づくりを進めてきた。 ・コロナ禍で学校行事や児童会活動等が縮小される中、児童に主体性をもたせながら活動を工夫できた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夢プロジェクト」の実践を通して、良好な人間関係づくりに努め、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できる学級経営を推進する。 ・ドリームタイムや児童会主催の活動を拡充させ、主体的に人と関わる力を醸成していくとともに、クラスとしてのまとまりを強めるような取組を推進する。
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で授業の進め方、課題の明確な提示、板書の仕方等の共通理解と共通実践に基づき、日々の授業の充実を図るとともに、朝の学習の時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。 ・少人数指導や特別支援教育担当等と、学級担任等の連携を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が97.1%、教職員が100.0%で数値指標を上回ったが、保護者は84.7%で下回った。 ・少人数指導や個に応じた指導、特別支援学級、日本語指導、かがやきルームの対応等により、児童一人一人のニーズに応じて効果的に支援することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習の時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。 ・少人数指導や特別支援教育担当等と、学級担任等の連携を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や授業の準備等、個々の役割と責任を明確にした上で、主務者の負担軽減、担当職員が確実な業務分担をして相互に協力しながら業務を行う。 ・かがやきルーム指導員、学校図書館司書、日本語ボランティア、SC、ALT等との学校スタッフと積極的に情報交換を行い、教育活動が効率的に機能するよう取り組む。 ・校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを実施していく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が100.0%で、数値指標を上回った。 ・個々の役割を行うだけでなく、校務分掌等の垣根を越えて、相互に協力して業務に当たることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の役割と責任を明確にした上で、複数配置による主務者の負担軽減、相互に協力しながら業務を行う。

<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・優先順位を付けて業務に当たるなど、個々の教職員の取組を継続する。 ・学校の取組を情報発信して、保護者や地域の理解を得る。 ・ボランティアによる参画も含めた業務の効率化を進めていく。 ・学年主任会や校務運営委員会を精選する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が80.0%で、数値指標を下回った。 ・分離新設やコロナ対応により多忙ではあったが、これまでに実施してきた「働き方改革プロジェクト」の検討を踏まえ、取組を着実に実施し、業務の効率化を図っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優先順位を付けて業務に当たるなど、個々の教職員の取組を継続する。 ・学校の取組を情報発信して、保護者や地域の理解を得ることで、ボランティアによる参画も含めた業務の効率化を進めていく。 ・自己研修日を設け、自己研鑽に努める。
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○6年児童の進学先中学校訪問、児童生徒指導強化連絡会を通して、小中学校の情報交換を密に行うことで、6年児童の中学校進学をスムーズに行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況を鑑みながら、今年度行えなかったあいさつ運動等を行い、中学生と関わる機会を設定し、学校園としての意識をもたせる。 <p>○地域学校園の各部会の検討を通して、小中学校の教職員が目標を共有しながら取組を進める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が92.0%で、数値指標を上回ったが、児童は77.9%で下回った。 ・コロナ禍の中で中学校生徒と小学校児童が直接関われる活動が制限された。 ・児童生徒指導強化連絡会や巡回指導の機会に中学校や各小学校との情報交換を行い、児童生徒に関する共通理解や学校園としての課題の把握に努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの状況を鑑みながら、中学生と合同のあいさつ運動や乗り入れ授業等を進め、学校園としての意識をもたせる。 ・可能であれば、中学校生徒会で作成する中学校生活の紹介映像を借用し、給食時等に放送・視聴することで、児童に学校園のつながりを感じさせる。
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会やPTAと連携し、ボランティアの協力を効果的に得ながら教育活動の充実を図る。 ・外部講師を招いての教育活動は、実践内容を精選し実効性を高める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が93.9%、教職員が100.0%、保護者が89.5%で、数値指標を上回ったが、地域住民は72.7%で下回った。 ・コロナ禍により、地域の教育力を生かした活動やボランティア活動も縮小されたが、実施できたものにおいては、成果を上げることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会やPTAと連携し、ボランティアの協力を効果的に得ながら教育活動の充実を図る。 ・コロナの状況を鑑みながら、外部講師を招いての教育活動により、実践内容を精選し実効性を高める。

<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ※A22で評価</p>	<p>○地域協議会を中心に、学校・家庭・地域が一体となって、児童の安全確保や健全育成の取組を更に強化する。 ○地域学校協働活動推進員を通して、保護者・地域・企業等と連携したり、学校支援ボランティアを活用したりするとともに地域の教育機関や企業等との連携を強化していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が93.9%、教職員が100.0%、保護者が89.5%で、数値指標を上回ったが、地域住民は72.7%で下回った。 ・地域や保護者と連携した通学路の点検、登下校の見守り等を継続・実施し、児童の安全を確保できた。 ・地域学校協働活動推進員やPTA役員を通して、可能な限り教育活動の充実を図ることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材の確保や発掘を行い、授業を充実させられるよう計画・連絡・調整していく。 ・地域の教育機関や企業等との連携を強化していく。 ・地域学校協働活動推進員やPTA役員が学校と連携を図る。
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の安全点検を着実に実施し、危険箇所を発見した場合は速やかに修繕する。 ・各種、学校の行事を実施する際には、来校された方々の安全にも配慮するなど適切な環境づくりに努める。 ・学校での安全に関する活動を保護者により知ってもらえるように、簡単な文章や写真と共に学校ホームページへの掲載で発信する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が96.0%、保護者が92.5%で、いずれも数値指標を上回った。 ・毎月の安全点検を実施し、危険箇所の早期発見や事故の未然防止に努めた。 ・コロナ感染症拡大防止のため、足跡の掲示を廊下やトイレ等に貼り、校舎内でのソーシャルディスタンスを保つなど、健康安全に関わる環境を整備した。 ・保健委員会による換気の校内放送を定期的に行なった。 ・スクールサポートスタッフによる放課後の消毒作業を行った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度達成した活動を継続して行う。 ・学校での安全に関する活動を保護者により知ってもらえるように、簡単な文章や写真と共に各種便りや学校ホームページへの掲載で発信する。

	<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 ※A10で評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい教科書の内容に沿った資料をそろえ、授業に対応できるよう蔵書整備を行う。購入資料選定の際に、幅広い資料を選定できるよう、全職員が資料を選択できる環境づくりを引き続き行う。 ・学級文庫を図書室から定期的に貸し出すことで、良書に触れる機会を増やし読書意欲の向上を図る。6年間を通して「読書記録」を記入し続けることで、自身の読書傾向を知る手掛かりにし読書の質を高めていく。 ・一人一台タブレット型パソコンが導入されるので、授業での活用方法についての研修を行い、各学級での使用機会を増やしていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が94.9%、教職員が92.0%で、いずれも数値指標を上回った。 ・学校図書館司書の協力を得て、学校図書館や市立図書館から授業に必要な資料や図書を準備し、充実した調べ学習ができた。 ・読書週間を設定するなどして、児童が本に親しむ機会を意図的、計画的に増やし、児童の興味関心を高めた。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級文庫を図書室から定期的に貸し出すことで、良書に触れる機会を増やし読書意欲の向上を図る。6年間を通して「読書記録」を記入し続けることで、自身の読書傾向を知る手掛かりにし読書の質を高めていく。 ・一人一台タブレットを有効に活用し、授業や家庭学習での使用機会を更に増やしていく。
	<p>B2 教職員は学校課題に関する研究やカリキュラムマネジメントに取り組み、児童のコミュニケーション力を身に付けようとしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながら協働的に研究を進める。 ・一人一授業を公開し、児童の学びの姿を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に努める。 ・全国学力テスト、学習内容定着度調査、とちぎっ子学習状況調査等の結果を分析し校内研修等で検討することにより、引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が100.0%で、数値指標を上回った。 ・授業研究会等を通して、指導内容や指導方法の工夫改善について意見交換を行った。 ・教科担任制の導入やローテーション授業により、指導の工夫改善につながった。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力テスト、学習内容定着度調査、とちぎっ子学習状況調査等の結果を分析し、校内研修等で検討することにより、引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B3 学校は「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」の合言葉の下、夢を育む教育活動を推進している。</p> <p>【数値目標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスタイムを活用し、目的意識や活動の意義を児童がより深く認識できるようにできるようにする。 ・夢やめあてを表すときに、数値化することで、目標を明確にし、児童の意識を高める。 ・縦割り班、登校班などの異学年交流で、上学年が下学年のために何ができるか考える機会をもつ。下学年は、上学年に対して憧れをもてるような機会を設け、学級担任が助言を行う。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が94.7%、教職員が92.0%、保護者が90.0%で、いずれも数値指標と同じか上回った。 ・児童自身が自分の夢や目当てに向かって、頑張る姿が多く見られた。 ・児童が学校行事や児童会活動に積極的に取り組めるよう「夢いっぱいプロジェクト」を核にして支援を行った。意欲的に活動する姿が随所に見られ、今後も活動の意義を丁寧に説明していき、更なる児童の積極性を高めたい。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスタイムを活用し、目的意識や活動の意義を児童がより深く認識できるようにする。 ・夢やめあてを表すときに、具体的に数値化することで、目標を明確にし、より高い目標に向かう児童の姿を目指す。 ・縦割り班、登校班などの異学年交流で、上学年が下学年のために何ができるか考える機会をもつ。下学年は、上学年に対して憧れをもてるような機会を設け、学級担任が助言を行う。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・28項目中18項目で、肯定的回答の割合が数値指標を上回っている。
- ・児童の評価では、A21「学校は、『小中一貫・地域学校園』の取組を行っている。」の項目を除き、27項目で8割以上の児童から肯定的評価を得ており、児童の自己肯定感や自己有用感は比較的高い水準を維持していると思われる。
- A3「児童はきまりやマナーを守って生活している。」の項目では、児童、教職員、保護者、地域住民の全てで数値指標を上回った。特に、児童、地域住民の肯定的回答の割合は、それぞれ昨年度より5ポイント以上向上した。今後も継続して生活や学習の指針を児童と共に確認し、定着を図っていききたい。
- A4「児童は時と場に応じた挨拶をしている。」の項目では、保護者の肯定的回答は、数値指標は下回ったものの昨年度に比べて5ポイント以上向上している。今後も引き続き、地域学校園でのあいさつ運動や児童の主体的な活動を推進し、取組の実際を情報発信していききたい。
- ・A9「児童は宇都宮の良さを知っている。」の項目では、保護者の肯定的回答の割合が5割程度に止まり、市小学校全体の平均も下回っている。「宇都宮学」の学習を充実させ、地域に愛着をもつとともに、清原地域を中心とした宇都宮市の特色を理解できるよう指導を工夫していききたい。
- ・A10、A25「ICT機器や図書等を学習に活用している。」の項目では、児童の肯定的回答の割合が94.9%で、昨年度よりも10ポイント以上向上した。一方で、保護者の肯定的回答も昨年度に比べて向上はしたものの、市の平均に比べると5ポイント程度下回っている。今後も、授業においてタブレット型パソコンを積極的に活用し、コミュニケーションツールとしても有効に活用していききたい。さらに、その様子をHP等を通じて発信し、保護者の理解も得られるようにしていききたい。
- A22、A23「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」の項目では、児童、保護者の肯定的割合は昨年度よりも向上し、市の平均も上回った。しかしながら一方で、地域住民の肯定的割合は昨年度よりも低下し、72.7%に止まった。コロナ禍の状況を鑑みながら、可能な範囲でボランティアの協力を得たり、企業等の出前授業を活用したりするなどして、特色ある教育活動を充実させていききたい。併せて、その様子をHP等で情報発信することで、地域住民の理解も得られるようにしていききたい。

7 学校関係者評価

- ・地域について、もっと教育に取り入れたらどうか。例えば飛山の活用を積極的に進めたらいいのではないかと。各学年で2回は来て、地元の郷土の歴史を知ることで、日本全体の歴史へと知識が広がると思う。
- ・かなり頑張っていると思う。人数が少なくなり行き届く指導ができています。
- ・コロナ禍の中でも体験学習は必要だと思う。体験学習での成果はすぐには出ないが、積み重ねにより自信につながると思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・児童の全ての項目で肯定的回答の割合が昨年度よりも上昇し、自己評価が高い結果となった。ゆいの杜小学校との分離で規模が縮小し、学校の雰囲気も昨年度までとは大きく変わったが、今後も一人一人の児童が主体的に活動できる場を設定し、取組を工夫していくとともに、個に応じた支援を継続することで、更に自己肯定感や自己有用感を高めていけるようにしていききたい。
- 学習面については、引き続き、授業のねらいを明確にし、考える時間を確保したり、授業形態を工夫したりするなどして、児童が積極的に学習に取り組めるようにしていききたい。また、コロナ禍の状況も見極めながら、可能な伝え合いの方法を考え、授業の中で取り入れていききたい。
- 生活面については、「望ましい挨拶の習慣化」に関して、保護者や児童の肯定的評価の割合が高まってきている。「自ら進んで挨拶をする望ましい態度」を身に付けていけるよう、児童の主体的な取組を積極的に支援し、活動を活性化していききたい。また、家庭や地域にも学校の取組を伝え、連携して支援ができるよう協力を求めていききたい。
- ・「夢いっぱいプロジェクト」については、「夢」の捉え方や活動の意義を今一度見直し、児童一人一人が目標達成に向けて更に意欲的に活動に取り組めるよう、称賛や励ましの声掛け、一人一人の頑張りを認める場の設定など工夫し、取組を進めていききたい。また、学校の取組を保護者や地域に継続して情報発信し、理解を得られるようにしていききたい。
- ・「いじめ」や「不登校」の問題に関する地域や保護者の関心は高く、学校でも問題の早期発見・解決や未然防止に努めているところである。これらの問題を解決するためには、関係機関や保護者、地域との連携が必要であることから、地域協議会や学級学年懇談会等の機会を利用し、必要な情報については共有しながら、いじめ防止やいじめの早期解決に向けた学校の取組を伝え、学校の信頼をより高められるよう努めていききたい。また、コミュニケーション力や友達と望ましい関係を築く力を身に付けさせていくことで、いじめ防止にもつなげていききたい。

